

9 農業機械類の保管と整備

(1) 草むらの中の機械類

施設地のあちらこちらに点々と散在する機械類、農繁期以外は草むらに埋もれたまま……。農場景観という面からも好ましいものではない。牛舎の周りはきれいに除草しても、放置機械の周辺だけ草ぼうぼうではだいなしです。

しかし、もっと重要なのは、「機械が傷む」という事です。草むらの中というのは、湿度が非常に高く、金属は急速に錆びます。また、虫などの小動物が巣を作ったり、糞などを付着（これも錆の一因）させたりします。



写真45 草むらの放置機械

(2) 休眠機械の保管

機械を使わない時期は、きちんと洗浄・グリスアップなどを行い、それなりの場所にまとめて保管すべきです。

泥の中に含まれる塩類は、金属やゴム類を腐食させます。泥自体も吸水して錆を呼びます。草の汁に含まれる塩類も腐食の原因となります。サイレージの酸添加処理をした場合に限らず、長期間使用しない機械は休眼前にきちんと洗浄・グリスアップすることが長持ちさせるための重要なポイントです。

機械の故障箇所、弱った部品なども保管前に整備しておいた方がよいでしょう。つい最近まで使っていた機械ですから、どこに不具合があるかわかりやすいはずですが、少なくとも一冬過ぎてから「どこが悪いんだっけ?」と思出すよりは間違いがないのではないのでしょうか。また、実際に次にその機械を動かすときは、本当に必要な時期になってからの場合がほとんどですので、その時になってから修理していたのでは作業のタイミングを逃してしまうおそれもあります。最悪なのは実際に作業を開始してから故障してしまうことです。

(3) 保管場所は

農業機械類の保管場所として、草むらや草地が不適當であるのは先に述べた通りです。



写真46・47 整備されて出番を待つ機械類

では、理想的な場所というと……、常識的には屋根のかかった機械庫ということになるのですが、ここでちょっと考えてみる必要があります。

既存の遊休施設で機械類の収納に使えるようなものがあればそれを活用するに越したことはありませんが、新たな機械庫を建てる必要まであるのでしょうか。

まず機械庫の建築コストと、それによって得られるであろう機械の損耗を防止できることによる利益を較べて考える必要があります。ほとんどの場合、このコストを回収することはかなり困難なはずです。

また、現有の機械体系に合わせた建物を建てたとして、将来（建物の耐用年数内）にわたって機械体系が変化しないという保証はあるのでしょうか。

もし仮に、数年後に草地関連作業を外部委託に移行するようなことになれば、他の用途に転用できる建物でない限り、その投資は無駄になってしまいます。

また逆に、現在よりも機械体系が大規模化した場合、今建てる物だけでは足りなくなり、また新たな建物が必要になる場合もあるでしょう。この場合、当初から余程余裕のあるレイアウトを取らない限り、行き当たりばったりの建て方になってしまい、手狭で、作業能率の悪い、景観上も締まりのないものになってしまう可能性があります。

最近のアメリカ等の例を見ますと、優良経営の酪農家で新築の機械庫を持っている所は少なく、露天で広いスペースを舗装やバラス敷きにした場所に機械類を整然と並べている事例が多いようです。こうしたスペースは、たとえ機械類が不要になったとしても、他に幾らでも転用が可能です。簡易バンカーやスタックサイレージ、単味飼料置き場、育成舎など、整地されたスペースさえあればすぐにでも設置可能なものというのは案外多いものです。



写真48

野外で機械類を保管する場合、洗浄やグリスアップの重要性はいよいよ大きくなります。また、冬期間はテントシートによる可動部の雪避けなども必要でしょう。

(4) 整備用工具類、小農具を整理する

道具を使う職人さんは、腕の良い人ほど道具がきれいで整理されている傾向があります。「道具を見れば腕が分かる」ともいわれます。

きれいな道具はそれを手に取ることに不快感がありません。きちんとシステムティックに整理された道具は作業性を格段に向上させます。乱雑に置かれた道具は、作業性を低下させるのみならず、事故の原因ですらあります。

作業舎の壁や棚などをうまく使い、用途別・サイズ毎に常に置き場所を決め、使い易いレイアウトを創ることが大事です。床に置きっぱなしの工具類による怪我の事例は、余りにも多いのです。



写真49・50

大事な基本はその道のプロに学び、参考にすることも大いに役に立ちます。

生産における機械作業の比率の高い畑作農家には学ぶべき事例が多く見られます。機械の性能をきちんと引き出せるかどうかは直接に所得に反映する場面が多いので、酪農家に比べて本気さが違います。

本職の整備工場も大いに参考になるのではないのでしょうか。とくに飛行機の整備工場やレーシングメカニックなどは、非常に高いレベルで人命を預かっているのに、基本において手抜きは許されていません。彼らも別に特殊なことをしているわけではなく、基本を徹底して忠実に実行しているだけです。

(5) 購入飼料置き場を考える

経営が大規模化して、購入飼料の使用量が多くなってくると、専用の飼料置き場が必要になってきます。従来からある飼料タンクは、使用量の少ないうちにはいいのですが、TMRなどで一度に使用量が多くなってくると、能率やコストの面で問題が生じる場合があります。

また、牛舎の片隅などにある飼料置き場では、換気の問題がある場合が多く、飼料にカビが生える、作業者が大量に粉塵を吸い込む、また、どうしても乱雑になってしまうという傾向もあります。

TMRなどでミキサーフィーダーを使う場合は、屋外に飼料バンカーを造ることが考えられます。柱と片屋根の掘建てに壁と中仕切りにコンパネを使った簡単なもので十分です。これを前に触れた機械類の屋外保管スペースと併せて使えば、作業性、将来に対する柔軟性などのメリットが期待できます。

ただし、濃厚飼料を一頭毎に手配りするような場合には、かえって作業性は低下するかも知れません。

閉鎖され、埃が充満しやすい場所を飼料置き場にする場合は、換気扇の設置など、換気の改善が必要です。



写真 51

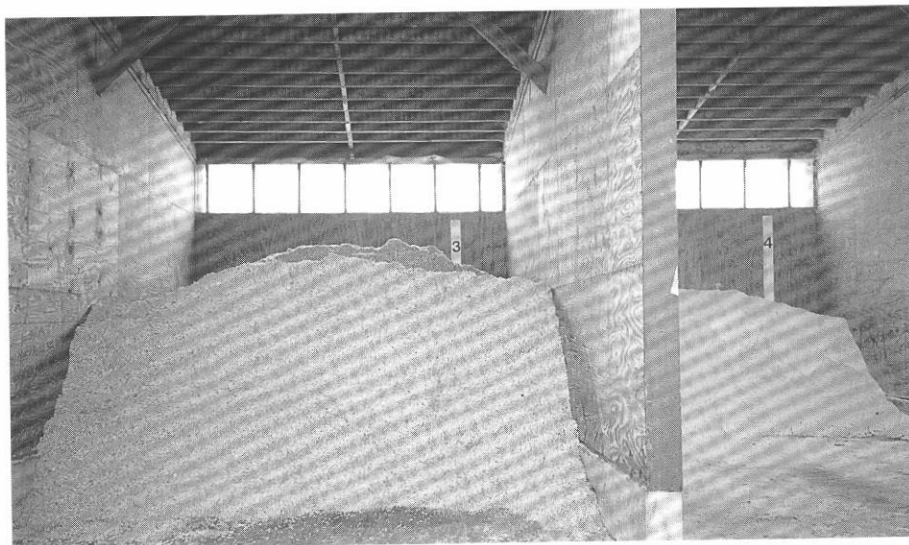


写真 52